

事業の基礎情報

事業実施地域	愛知県安城市（JR三河安城駅周辺）
人材育成の対象	三河安城駅周辺の地域関係者（企業経営者や地元住民の方）、シーホース三河関係者
人材育成の手法	有識者を招いて開催するワークショップにて、将来の交通動態予測等を通じて交通課題やまちづくりを学ぶ
人材育成の内容	大型施設建設による好影響/悪影響を学び、将来の交通課題やまちづくり指針を検討できる人材を育成
想定育成人数	20～30名（地域関係者（企業経営者や地元住民の方）、シーホース三河関係者、アイシン技術者）

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

交通手段として「自動車利用」が群を抜いて高くなっている中、2025年以降に安城市内の中心となる三河安城駅・安城駅周辺に大型商業施設（アリーナ含む）が相次いで開業する予定となっており、駅周辺を中心とした交通渋滞が懸念されています。そのため、地域の持続可能な発展に向け、駅及び施設周辺での賑わい創出を図るだけでなく、地域課題となるアリーナ開業後の興行時における来訪者（歩行者、自動車）の混雑対策に対し、地域関係者を巻き込み地域課題解決に向けた推進体制を構築し人材育成を行うことを目的とします。

（事業の概要）

アイシンが持つ技術を応用することで歩行者・自動車の交通動態予測（3Dによる可視化も想定）を行い、その結果をもとに安城市の協力のもと“①三河安城駅周辺の地域関係者（企業経営者や地域住民の方々）”に対して、有識者を招いた“②ワークショップ（以下、WS）を数回開催”し、“③将来想定される交通・まちづくり課題について議論・検討”することで、“④将来の交通課題（事故/渋滞リスクなど）やまちづくり課題（人の呼び込み/人流制御など）”を学んでいただき、次年度以降に地域関係者にて課題検討と施策提案を実施する「サステイナブルな地域づくり共創連携（つくる.meet.会議）」の組成を目指します。

取組の詳細

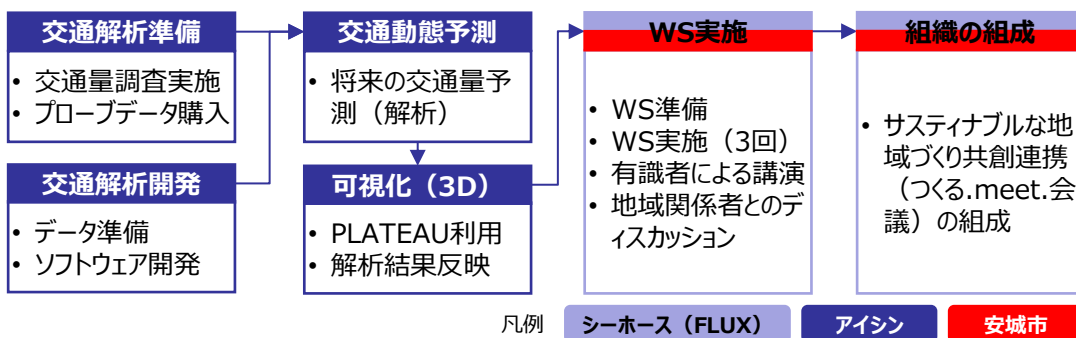
(事業により見込まれる効果)

シーホース三河のホームアリーナとなる新アリーナの建設前に将来の歩行者・自動車の交通動態予測により渋滞予測を実施することで、事前に混雑解消に向けた交通規制施策や交通事故対策の検討が可能になると考えられます。また、将来の交流動態予測の実施により、交通規制による混雑緩和や公共交通への転換について、定量的なデータをベースに地域としてのKPI設定や目標設定が可能になると考えられ、地域公共交通計画を含む地域のまちづくり計画の立案や成果指標として寄与できると考えられます。

さらに、新アリーナの運営主体となるシーホース三河社員や地域関係者（企業経営者や地元住民の方々）の交通課題やまちづくりに対する知見・経験の向上が期待され、次年度以降に設立を目指している「持続可能な地域づくり共創連携（つくる.meet.会議）」において、より専門的な議論・検討や施策提案が実施されることが期待されます。

(事業実施手順・スケジュール)

事業実施手順



スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
準備等	交通量調査 データ購入		WS 準備		WS 準備	WS 準備	組織組成 準備	
交通解析		ソフトウェア開発			交通動態予測・可視化			
WS				WS		WS		WS

凡例: シーホース (FLUX) アイシン 安城市

(補助事業実施後の予定)

本補助事業による補助対象経費を活用することで、本年度は大型商業施設の開業が予定されている三河安城駅周辺の交通状況予測をアイシンの技術開発やPLATEAU等を活用して実施し、安城市の協力もと地域関係者とのWSを実施します。

次年度以降は、2028年（予定）のアリーナ開業に向けて地域関係者にて課題検討と施策提案を実施する「持続可能な地域づくり共創連携（つくる.meet.会議）」を組成し、本事業にて開発した技術を用いた解析結果等を基に、地域の交通課題対策やまちづくり方針をシーホース三河、地域関係者、行政と一緒に検討・提案できる環境づくりを進めてまいります。